研究成果報告書 科学研究費助成事業

今和 5 年 5 月 1 5 日現在

機関番号: 12603

研究種目: 基盤研究(C)(一般)

研究期間: 2018~2022

課題番号: 18K00496

研究課題名(和文)ベンガル語ベンガル文学の総合的研究

研究課題名 (英文) Comprehensive Study of Bengali Language and Literature

研究代表者

丹羽 京子(Niwa, Kyoko)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号:90624114

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文):現在ではインド、西ベンガル州とバングラデシュの二国に分かれて存在するベンガル地域は共通の言語を用いており、1000年にわたる伝統文化の大部分も共有している。本研究は、国家が分断されたために包括的に扱うことが困難になりつつあるベンガル語とその文化、特に文学を第三者的視点から総合的に扱い、今後の研究を進めるための基礎作りに取り組むものである。

具体的な成果としては、基礎語彙集作りと様々な論文が掲載された「ベンガル研究」という雑誌の発行を始めたことが挙げられるが、そこに至るまでにもさまざまなセミナーを通して東西の相互理解、そして客観的総合的な理解に努めたという積み重ねも本研究の成果と言えよう。

研究成果の学術的意義や社会的意義 ベンガル語基礎語彙集は、3000語あまりを網羅し、例文を付したもので、ベンガル語を学ぶ学生のみならず、各所でのベンガル語学習者に配布された。ベンガル語には日本語との辞書が存在していないため、この「日本語 ベンガル語語彙集」は学習の手助けになると考えられる。 また「ベンガル研究」は、ベンガルを対象にした初めてのジャーナルで、言語、文学以外の内容のものも含み、広くベンガル研究に貢献するものである。日本語、英語、ベンガル語の三言語で書かれたもので、国際的にも通用するものである。さらにその過程で行われたセミナーには多くの参加者を得、活発な議論が行われ、今後のベンガル研究の基礎作りとなった。

研究成果の概要(英文): Today, Bengal is divided into two countries, West Bengal of India and Bangladesh, but people in Bengal use the same language and share almost the same cultural tradition. This is a project of comprehensive study of Bengali language and culture from the viewpoint of the third party, which becomes rather difficult after partition. This is going to be a foundation for future Bengal Studies.

One of the outcomes is "Bengali glossary for beginners" and the other is publishing " Japan Journal of Bengal Studies". The latter one is the first journal of this kind and it includes various kinds of dissertations, not only on Bengali literature and language, but also Japan-Bengal relationship and translation studies.

We held a couple of international seminars before summing up our project and the presentations from both sides of Bengal and discussion itself was also worthwhile.

研究分野: ベンガル文学、比較文学

キーワード: ベンガル語 ベンガル文学 インド、西ベンガル州 バングラデシュ

1.研究開始当初の背景

ベンガル語は、インドとバングラデシュの2国にまたがって用いられ、2億8千万人ほどの話者を有する東インド地域の最大言語である。ベンガル語は1000年以上の歴史を持ち、豊かな文学的伝統を有するにも関わらず、長い間公用語として用いられることがなかったため、そして多大な犠牲の末に公用語として用いられるようになった1947年以降は国家が分断されてしまったため、この重要な言語および文化圏を包括的に扱うことが困難な状況が続いている。タゴールなどの突出した文学者の研究は、国の内外で盛んに行われてきたが、ベンガル文学全体の包括的な研究は十分に行われてきたとは言い難く、本国における研究も、バングラデシュ側の視点に立つか、インド側の視点に立つかで力点が異なってくるという違いが見られる。また、言語そのものに関しても、どちらのベンガル語を標準とみなすかによる違いがあり、綴り字や一般的な語彙の選択、そして語法の点でも完全に統一的なものとはなっていない。こうした状況は学習者にとって不利になるだけでなく、研究を進める上でもマイナスとなっていた。

2.研究の目的

ベンガル語、ベンガル文化の重要性は言うに及ばず、上記のような状況において、日本においてこの分野の研究を行うことは、客観的で第三者的視点を提供するという観点からも非常に有用であると考えられた。

また、ベンガル語は長い間公用語として用いられることがなかったため、およそ 1000 年にわたって文学用語として発展を遂げてきたという特殊事情を持つ。つまりベンガル語自体の発展は、ベンガル文学の発展と対であり、また、ベンガル文学はベンガル文化の伝統の中核を担うものであると言える。このような観点からベンガル語とベンガル文学を総合的に扱う基礎的研究を行うことを目的とした。

具体的には、東西どちらにも偏らない辞書作りの基礎を固めることと、ベンガル文学全体を包括的に概観することが挙げられる。文学の分野では、文学史的な概観のみならず、バングラデシュ、インド双方の文学の現状について議論し、相互に有意義な関係を持つという協力体制を作ることも目的のひとつであった。

3.研究の方法

まず、辞書作りの基礎であるが、CEFR 基準の A1、A2 レベルを基本とし、学習者が利用可能な語彙集を作成することとした。ベンガル語においては日本語との辞書が存在しないため、日本語ベンガル語の辞書もしくは語彙集作りが必須である。また、現状ではベンガル語 英語辞書を学習者は用いているが、ベンガル語 英語よりも、英語 ベンガル語の辞書の方がより実用に適さないため、日本語 ベンガル語の語彙集が急務であると考えられた。そのため、まずは日本語ベンガル語の実用単語帳を作成することとした。余力があれば、さらにベンガル語 日本語の単語帳、そしてそれらを基盤として徐々に辞書のかたちに転換していくことを目指した。

そして包括的なベンガル文学の研究に関しては、インド、バングラデシュ双方の研究者の協力を仰ぎつつ、その発展の歴史や、現状について様々な観点から討議を行い、一定程度の成果物を作成することとした。また、インドとバングラデシュが分離独立に至る前の統合的なベンガル語およびベンガル文学を検討するために、中世のベンガル文学を代表するボイシュノブ(ヴァイシュナヴァ = ヴィシュヌ派)の詩編を継続的に読み進めることも計画のうちに含まれていた。

幸いなことにインドとバングラデシュの関係は良好で、一堂に会して議論を行うことにはなんら支障はなく、相互に意見を出し合うことも可能であったため、複数の国際セミナーを行うこととした。また、中世のベンガル文学については、現地の専門家を交えて定期的に読書会を行うこととした。

4.研究成果

コロナの影響もあり、延長が認められた上でも多少の軌道修正が余儀なくされたものの、おおよその計画は遂行され、一定の成果が得られたと考えられる。

まず日本語 ベンガル語単語帳は、2022年3月に完成することができた。これは3000語以上の語彙を含んだものだが、インドとバングラデシュでは異なる語彙に関しても網羅的に収録し、使用状況について註を付した。また学習者の便宜のために、すべての語彙には例文が付されている。さらに巻末には、数詞、後置詞、親族名称などをまとめたほか、日本語で出てくることのな

いベンガル特有の文化事象をあらわす語彙もまとめた。この単語帳は、本学のベンガル語を学ぶ学生はもちろん、各所に配布され、好評を得ている。

次に国際セミナーだが、2021 年度と 2022 年度の 2 回行われた。うち、2021 年度はまだコロナの影響下にあったため、2021 年 9 月 25 日にオンラインで行われた。このセミナーは、「文化の翻訳、文学の翻訳」をテーマとし、日本語からベンガル語、もしくはベンガル語から日本語に翻訳する際の語法的、文化的な問題をさまざまな角度から検討するものであった。ほとんどの発表者は翻訳の経験を持ち、またベンガル人の発表者は日本語を介し、日本人発表者はベンガル語を介すもので占められたため、双方の文化的差異のみならず、言語としての類似点や相違点、そしてそれぞれの学習者にとっての利便性をいかに高めるかといった方面まで議論が進められた。また、インド、バングラデシュ双方から参加を得、それぞれの国での日本紹介や日本研究についても話題となった。このセミナーの成果は、FINDAS International Conference Series (人間文化研究機構 地域研究推進事業 南アジア研究の一環として東京外国語大学に設置された南アジア研究センターの出版物)としてリサーチペーパーにまとめられている。

2022 年度はいよいよ対面での国際セミナーの開催へ向けて準備を進め、2022 年 9 月 21 日に 無事東京外国語大学で開催することができた。2 回目のセミナーは "How Emotions Turn into Poetry?" と題するもので、インド、バングラデシュ双方から現代詩人を招き、分離独立以降のベンガルの現代詩の現状を「感情」もしくは「情動」とからめて語ってもらうものであった。残念ながらインド側の参加者 Srijato 氏が来日直前にコロナに罹患したため、来日がかなわなかったが、セミナーにはオンラインで参加し、東西の両詩人によるプレゼンテーションと、コメントおよびディスカッションが実現した。このセミナーは基本的に英語で行われたが、ベンガル詩を扱うため、ベンガル語を介さない参加者のために英訳を付したうえで適宜ベンガル語も用いられた。こちらのセミナーも、SASC International Conference Series (東京外国語大学 南アジア研究センター)としてリサーチペーパーのかたちでまとめられた。

当該研究期間の最後には、それまでのセミナーなどの積み重ねや、新たに構築されたネットワークを生かして、「ベンガル研究創刊号」が東京外国語大学ベンガル語専攻研究室から発行された。これは日本語、ベンガル語、英語の三言語によるベンガルを対象としたジャーナルで、この種のものとしては日本で初めて発行されたものである。ベンガルの歴史や文学、ベンガル語を対象とした言語学など様々な分野の10本の論文と翻訳および過去の優秀な卒論の紹介を含むこのジャーナルは総ページ数が277頁となり、非常に充実したものとなった。特に日本 ベンガル関係史をテーマにした論文は、バングラデシュ、インド双方から投稿があり、対になるものとして内容的にも高く評価されている。また、三言語で書かれているために、国際的にも通用するもので、2023年の3月に発行されると同時に、海外からも多くの問い合わせを受けている。

具体的な成果物を作成するには至らなかったものの、中世ベンガル文学の読書会はこの期間 を通して続けられ、翻訳が着々と用意されつつある。これに関しては今後も読書会を継続し、最 終的にはなんらかのかたちでまとめたいと考えている。

以上述べたように、ベンガル語に関する基礎的な作業を行い、また様々な研究活動を通してこの分野の研究に対する多角的な視点が獲得できたことは非常に有意義であったと考えられる。 今後はこうした基礎作業や知見を基盤としつつ、より発展的な研究が展開されることを期待したい。

具体的な今後の見通しとしては、まず基礎語彙集を発展させ、辞書のかたちにあらためることが挙げられよう。もともとの計画ではもう少し辞書に近づけるつもりであったが、時間的人的制約もあり、そこまでこぎつけることができなかったのが惜しまれる。

一方で、計画の当初には挙げていなかった「ベンガル研究」の発行は、今後もなんらかのかたちで継続することが決まっており、言語および文化・文学の分野における発表の場を担保するという意味は大きいと考えられる。海外など遠方からの問い合わせも多々あることから、どこからでもアクセスしやすくするために、このジャーナルのデータ化も現在検討されている。

5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件(うち査読付論文 5件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件)

【雑誌論文】 計8件(うち査読付論文 5件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件))
1.著者名	4.巻
丹羽京子	_
2.論文標題	5.発行年
『12か月の家と世界』を訳す	2022年
	·
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
文化の翻訳、文学の翻訳~ベンガルから日本へ、日本からベンガルへ	47-64
文化の脚部に 文字の脚部に ベンガルから日本 ベ 日本から ベンガル・	47 04
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	有
オープンアクセス	
	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
****	1
1 . 著者名	4.巻
丹羽京子	25
2.論文標題	5.発行年
ベンガル詩と押韻~押韻が先か、詩が先か	2022年
	'
3.雑誌名	6 . 最初と最後の頁
総合文化研究	45 - 68
int ロスIUWI 八	40 - 00
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	 査読の有無
なし	有
± + + + + + + + + + + + + + + + + + + +	同哪 井芝
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1.著者名	4 . 巻
丹羽京子	1
2.論文標題	5.発行年
詩人シュバシュ・ムコッパダエの軌跡	2020年
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
南アジア多言語社会における複合文化のなかの文学伝承	43 - 77
H))) S CHARLACOTT S GCC ALLOWS 10 OX FILM	40 - 11
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	
なし	
4.U	無
+ = 1 -7 \ 1-2	
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
	T
1. 著者名	4.巻
丹羽京子	第24号
2 . 論文標題	5.発行年
タゴールにとっての「異界」	2021年
,	
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
総合文化研究	35 - 48
総ロスIUWI 九	SO - 40
	査読の有無
掲載会立のDOL(ごごねルナブジェクト繰りて)	日命のソイサ
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	有
なし	有
オープンアクセス	
なし	有

オープンアクセスとしている(また、その予定である) - 1.著者名 丹羽京子 4.巻 第一号 2.論文標題 1930年代のベンガル詩壇~時代からの展望 5.発行年 2023年 3.雑誌名 ベンガル研究 6.最初と最後の頁 45-63 尋載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし 査読の有無 無	1	
丹羽京子	, 18 B D	4 . 巻
2. 論文機類 5. 発行年 2020年 2020年 3. 開話名 6. 最初と最後の頁 26・44 2020年 4. 一プンアクセス 1 国際共著 - 1 2020年 2020年 3. 開話名 8. 会会文化研究 26・44 2020年 4. 一プンアクセスとしている(また、その予定である) 1 著名名 月羽京子 2. 論文機節 5. 無行年 2018年 3. 開話名 5. 無行年 2018年 3. 開話名 5. 無行年 2018年 3. 開話名 6. 最初と最後の頁 223・242 23・24		
ふたつのベンガルの死と死者の表験 2020年 3. 練誌名 終合文化研究 6. 最初と最後の頁 26・44 開業論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし 国際共著 - オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 国際共著 - 1. 業者名 月羽京子 4. 巻 8 2. 論文標題 報論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし 資話の有無 有 - オープンアクセス オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 国際共著 - 1. 業者名 月羽京子 4. 養 97 2. 論文標題 東京外国語人学論集 5. 集行年 2019年 3. 随話名 東京外国語人学論集 6. 最初と最後の頁 226・245 3. 随話名 東京外国語人学論集 6. 最初と最後の頁 4. 巻 7- プンアクセス カープンアクセスとしている(また、その予定である) 1. 業者名 月別京子 4. 巻 8-号 2. 論文經題 1890年代のペンガル詩位 ~ 時代からの展望 5. 発行年 2023年 2023年 6. 最初と最後の頁 4.543 3. 職誌名 ペンガル研究 5. 発行年 2023年 6. 最初と最後の頁 4.543 3. 職誌公 ペンガル研究 5. 発行年 2023年 6. 最初と最後の頁 4.543	7.3.33.3	, J
ふたつのベンガルの死と死者の表験 2020年 3. 練誌名 終合文化研究 6. 最初と最後の頁 26・44 開業論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし 国際共著 - オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 国際共著 - 1. 業者名 月羽京子 4. 巻 8 2. 論文標題 報論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし 資話の有無 有 - オープンアクセス オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 国際共著 - 1. 業者名 月羽京子 4. 養 97 2. 論文標題 東京外国語人学論集 5. 集行年 2019年 3. 随話名 東京外国語人学論集 6. 最初と最後の頁 226・245 3. 随話名 東京外国語人学論集 6. 最初と最後の頁 4. 巻 7- プンアクセス カープンアクセスとしている(また、その予定である) 1. 業者名 月別京子 4. 巻 8-号 2. 論文經題 1890年代のペンガル詩位 ~ 時代からの展望 5. 発行年 2023年 2023年 6. 最初と最後の頁 4.543 3. 職誌名 ペンガル研究 5. 発行年 2023年 6. 最初と最後の頁 4.543 3. 職誌公 ペンガル研究 5. 発行年 2023年 6. 最初と最後の頁 4.543	0. 46.2-15.07	= 3v./= h=
3. 雑誌名 総合文化研究	·····	5.発行年
3. 雑誌名 総合文化研究	ふたつのベンガルの死と死者の表象	2020年
総合文化研究 26-44 (26-4		
総合文化研究 26-44 (26-4	2 ## *** #7	C 目初1.目後の五
電職論文の001 (デジタルオブジェクト識別子) なし 1 . 著名名	** *** * *	り、最例と最後の貝
電職論文の001 (デジタルオブジェクト識別子) なし 1 . 著名名	総合文化研究	26 - 44
###		
###		
###		
オープンアクセス 国際共著 1 巻名名 1 巻名名 2018年 2018年 2018年 2018年 3 銀誌名 7 プンアクセスとしている(また、その予定である) 1 著名名 7 プンアクセスとしている(また、その予定である) 223 - 242 223 2	掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
オープンアクセス 国際共著 1 巻名名 1 巻名名 2018年 2018年 2018年 2018年 3 銀誌名 7 プンアクセスとしている(また、その予定である) 1 著名名 7 プンアクセスとしている(また、その予定である) 223 - 242 223 2	なし	無
・		***
・	+	三咖井
著名名	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	国际共者
著名名	オーブンアクセスとしている(また、その予定である)	-
丹羽京子 96 2. 論文標題 語りとしての「映画」 - 「チャルロタ」考 - 5. 第行年 2018年 3. 練誌名 女し 6. 最初と最後の頁 223 - 242 電談の有無 女し 面談内有無 有 オープンアクセス 大ープンアクセスとしている(また、その予定である) 1. 著書名 97 2. 論文標題 チョうと近代 - シュクマル・ラエのチョラを巡る一考察 5. 発行年 2018年 3. 雑誌名 東京外国語大学論集 6. 最初と最後の頁 226 - 245 日曜共著 イープンアクセス 室読の有無 有 オープンアクセスとしている(また、その予定である) 4. 巻 第一号 第一号 1. 著書名 月羽京子 4. 巻 第一号 2. 論文標題 1930年代のベンガル詩連 - 時代からの展望 5. 発行年 2023年 3. 雑誌名 ベンガル研究 6. 最初と最後の頁 45-63 最談論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 無		<u>.</u>
丹羽京子 96 2. 論文標題 語りとしての「映画」 - 「チャルロタ」考 - 5. 第行年 2018年 3. 練誌名 女し 6. 最初と最後の頁 223 - 242 電談の有無 女し 面談内有無 有 オープンアクセス 大ープンアクセスとしている(また、その予定である) 1. 著書名 97 2. 論文標題 チョうと近代 - シュクマル・ラエのチョラを巡る一考察 5. 発行年 2018年 3. 雑誌名 東京外国語大学論集 6. 最初と最後の頁 226 - 245 日曜共著 イープンアクセス 室読の有無 有 オープンアクセスとしている(また、その予定である) 4. 巻 第一号 第一号 1. 著書名 月羽京子 4. 巻 第一号 2. 論文標題 1930年代のベンガル詩連 - 時代からの展望 5. 発行年 2023年 3. 雑誌名 ベンガル研究 6. 最初と最後の頁 45-63 最談論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 無	1 英型点	4 *
2. 論文標題		
2. 論文標題 語りとしての「映画」~「チャルロタ」考~ 3. 雑誌名 東京外国語大学論集	丹羽京子	96
語りとしての「映画」 - 「チャルロタ」考 - 2018年 2018年 2018年 3. 雑誌名 東京外国語大学論集 6. 最初と最後の頁 223 - 242 23 - 242 23 - 242 23 - 242 23 - 242 23 - 242 24 24 24 24 24 24 24 24 24 24 24 24		
語りとしての「映画」 - 「チャルロタ」考 - 2018年 2018年 2018年 3. 雑誌名 東京外国語大学論集 6. 最初と最後の頁 223 - 242 23 - 242 23 - 242 23 - 242 23 - 242 23 - 242 24 24 24 24 24 24 24 24 24 24 24 24	2、40分析時	F 25/= /-
3. 雑誌名 6. 最初と最後の頁 東京外国語大学論集 6. 最初と最後の頁 223 - 242 accompany 園職議会 有 オープンアクセス 国際共著 オープンアクセスとしている(また、その予定である) 4. 巻 97 97 2. 論文標題 5. 発行年 2018年 6. 最初と最後の頁 3. 雑誌名 6. 最初と最後の頁 オープンアクセス 面際共著 オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1. 養者名 丹羽京子 4. 巻 2. 論文標題 5. 発行年 1930年代のペンガル詩壇 - 時代からの展望 5. 発行年 3. 雑誌名 6. 最初と最後の頁 ペンガル研究 6. 最初と最後の頁 45-63 45-63		
3. 雑誌名 6. 最初と最後の頁 東京外国語大学論集 6. 最初と最後の頁 223 - 242 accompany 園職議会 有 オープンアクセス 国際共著 オープンアクセスとしている(また、その予定である) 4. 巻 97 97 2. 論文標題 5. 発行年 2018年 6. 最初と最後の頁 3. 雑誌名 6. 最初と最後の頁 オープンアクセス 面際共著 オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1. 養者名 丹羽京子 4. 巻 2. 論文標題 5. 発行年 1930年代のペンガル詩壇 - 時代からの展望 5. 発行年 3. 雑誌名 6. 最初と最後の頁 ペンガル研究 6. 最初と最後の頁 45-63 45-63	語りとしての「映画」~「チャルロタ」考~	2018年
東京外国語大学論集 223 - 242 園職論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし 宣読の有無 有 オープンアクセス 国際共著 - 1. 著名名 丹羽京子 4 . 巻 97 2. 論文標題		
東京外国語大学論集 223 - 242 園職論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし 宣読の有無 有 オープンアクセス 国際共著 - 1. 著名名 丹羽京子 4 . 巻 97 2. 論文標題	2 hb÷t-67	て 見かい目後の五
日報論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし		
日報論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし	東京外国語大学論集	223 - 242
### おープンアクセス		
### おープンアクセス		
### おープンアクセス		
1 - ブンアクセス	掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
1 - ブンアクセス	なし	有
オープンアクセスとしている(また、その予定である) -		[7
オープンアクセスとしている(また、その予定である) -	+	(三) (本) (本)
1. 著者名 4. 巻 97 2. 論文標題 5. 発行年 2018年 3. 雑誌名 6. 最初と最後の頁 226 - 245 B載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし 査読の有無 有 オープンアクセス 国際共著	オーノンアクセス	国際共者
1. 著者名 4. 巻 97 2. 論文標題 5. 発行年 2018年 3. 雑誌名 6. 最初と最後の頁 226 - 245 B載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし 査読の有無 有 オープンアクセス 国際共著	オープンアクセスとしている(また、その予定である)	-
円羽京子 97 2. 論文標題 チョラと近代~シュクマル・ラエのチョラを巡る一考察 5. 発行年 2018年 3. 雑誌名 東京外国語大学論集 6. 最初と最後の頁 226 - 245 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 有 オーブンアクセス オーブンアクセスとしている (また、その予定である) 国際共著 第一号 2. 論文標題 1930年代のベンガル詩壇~時代からの展望 5. 発行年 2023年 3. 雑誌名 ベンガル研究 6. 最初と最後の頁 45-63 場職論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 無		L
円羽京子 97 2. 論文標題 チョラと近代~シュクマル・ラエのチョラを巡る一考察 5. 発行年 2018年 3. 雑誌名 東京外国語大学論集 6. 最初と最後の頁 226 - 245 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 有 オーブンアクセス オーブンアクセスとしている (また、その予定である) 国際共著 第一号 2. 論文標題 1930年代のベンガル詩壇~時代からの展望 5. 発行年 2023年 3. 雑誌名 ベンガル研究 6. 最初と最後の頁 45-63 場職論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 無	4 *************************************	1 4 14
2. 論文標題 5. 発行年 2018年 3. 雑誌名 6. 最初と最後の頁 226 - 245 B載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無 有 オープンアクセス 国際共著 イープンアクセスとしている(また、その予定である) 4. 巻 第一号 2. 論文標題 5. 発行年 2023年 1. 雑誌名 ベンガル研究 6. 最初と最後の頁 45-63 8載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無 なし 査読の有無		4.惷
2. 論文標題 5. 発行年 2018年 3. 雑誌名 6. 最初と最後の頁 226 - 245 B載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無 有 オープンアクセス 国際共著 イープンアクセスとしている(また、その予定である) 4. 巻 第一号 2. 論文標題 5. 発行年 2023年 1. 雑誌名 ベンガル研究 6. 最初と最後の頁 45-63 8載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無 なし 査読の有無	丹羽京子	97
チョラと近代~シュクマル・ラエのチョラを巡る一考察 2018年 3. 雑誌名 東京外国語大学論集 6. 最初と最後の頁 226 - 245 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 有 オープンアクセスとしている(また、その予定である) 国際共著 第一号 2. 論文標題 1930年代のベンガル詩壇~時代からの展望 5. 発行年 2023年 3. 雑誌名 ベンガル研究 6. 最初と最後の頁 45-63 最載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 無	1	
チョラと近代~シュクマル・ラエのチョラを巡る一考察 2018年 3. 雑誌名 東京外国語大学論集 6. 最初と最後の頁 226 - 245 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 有 オープンアクセスとしている(また、その予定である) 国際共著 第一号 2. 論文標題 1930年代のベンガル詩壇~時代からの展望 5. 発行年 2023年 3. 雑誌名 ベンガル研究 6. 最初と最後の頁 45-63 最載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 無	2 - 华春時	「 マン・/二/元
3 . 雑誌名 6 . 最初と最後の頁 226 - 245 東京外国語大学論集		
3 . 雑誌名 6 . 最初と最後の頁 226 - 245 東京外国語大学論集	チョラと近代~シュクマル・ラエのチョラを巡る一考察	2018年
東京外国語大学論集226 - 245掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし査読の有無 有オープンアクセス国際共著 -1. 著者名 丹羽京子4. 巻 第一号2. 論文標題 1930年代のベンガル詩壇 ~ 時代からの展望5. 発行年 2023年3. 雑誌名 ベンガル研究6. 最初と最後の頁 45-63場載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし査読の有無 無		
東京外国語大学論集226 - 245掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし査読の有無 有オープンアクセス国際共著 -1. 著者名 丹羽京子4. 巻 第一号2. 論文標題 1930年代のベンガル詩壇 ~ 時代からの展望5. 発行年 2023年3. 雑誌名 ベンガル研究6. 最初と最後の頁 45-63場載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし査読の有無 無	3. 싸박성	6 早知し早後の百
日報論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし		り、取例と取後の貝
なし 有 オープンアクセスとしている(また、その予定である) 国際共著 1. 著者名	東京外国語大学論集	226 - 245
なし 有 オープンアクセスとしている(また、その予定である) 国際共著 1. 著者名		
なし 有 オープンアクセスとしている(また、その予定である) 国際共著 1. 著者名		
なし 有 オープンアクセスとしている(また、その予定である) 国際共著 1. 著者名		
オープンアクセス 国際共著 1.著者名 丹羽京子 4.巻 第一号 2.論文標題 1930年代のベンガル詩壇~時代からの展望 5.発行年 2023年 3.雑誌名 ベンガル研究 6.最初と最後の頁 45-63 最載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 無	n	査読の有無
オープンアクセス 国際共著 1.著者名 丹羽京子 4.巻 第一号 2.論文標題 1930年代のベンガル詩壇~時代からの展望 5.発行年 2023年 3.雑誌名 ベンガル研究 6.最初と最後の頁 45-63 最載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 無	掲載論乂のDUI(アンタルオノンエクト識別士)	
オープンアクセスとしている(また、その予定である) - 1.著者名 丹羽京子 4.巻 第一号 2.論文標題 1930年代のベンガル詩壇~時代からの展望 5.発行年 2023年 3.雑誌名 ベンガル研究 6.最初と最後の頁 45-63 局載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 無		有
オープンアクセスとしている(また、その予定である) - 1.著者名 丹羽京子 4.巻 第一号 2.論文標題 1930年代のベンガル詩壇~時代からの展望 5.発行年 2023年 3.雑誌名 ベンガル研究 6.最初と最後の頁 45-63 局載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 無		有
1 . 著者名 丹羽京子 4 . 巻 第一号 2 . 論文標題 1930年代のベンガル詩壇~時代からの展望 5 . 発行年 2023年 3 . 雑誌名 ベンガル研究 6 . 最初と最後の頁 45-63 曷載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし 査読の有無 無	なし	
1 . 著者名 丹羽京子 4 . 巻 第一号 2 . 論文標題 1930年代のベンガル詩壇~時代からの展望 5 . 発行年 2023年 3 . 雑誌名 ベンガル研究 6 . 最初と最後の頁 45-63 曷載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし 査読の有無 無	なし オープンアクセス	
丹羽京子第一号2.論文標題 1930年代のベンガル詩壇~時代からの展望5.発行年 2023年3.雑誌名 ベンガル研究6.最初と最後の頁 45-6345-63本誌の有無 無	なし オープンアクセス	
丹羽京子第一号2.論文標題 1930年代のベンガル詩壇~時代からの展望5.発行年 2023年3.雑誌名 ベンガル研究6.最初と最後の頁 45-6345-63本誌の有無 無	なし オープンアクセス	
丹羽京子第一号2.論文標題 1930年代のベンガル詩壇~時代からの展望5.発行年 2023年3.雑誌名 ベンガル研究6.最初と最後の頁 45-6345-63本誌の有無 無	なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著
2 . 論文標題 5 . 発行年 1930年代のベンガル詩壇~時代からの展望 2023年 3 . 雑誌名 6 . 最初と最後の頁 ベンガル研究 45-63 曷載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無 なし 無	なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著
1930年代のベンガル詩壇~時代からの展望 2023年 3 . 雑誌名 6 . 最初と最後の頁 ベンガル研究 45-63 曷載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無 なし 無	なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1.著者名	国際共著 - 4 . 巻
1930年代のベンガル詩壇~時代からの展望 2023年 3 . 雑誌名 6 . 最初と最後の頁 ベンガル研究 45-63 曷載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無 なし 無	なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1.著者名	国際共著 - 4 . 巻
1930年代のベンガル詩壇~時代からの展望 2023年 3 . 雑誌名 6 . 最初と最後の頁 ベンガル研究 45-63 曷載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無 なし 無	なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1.著者名 丹羽京子	国際共著 - 4.巻 第一号
3 . 雑誌名 6 . 最初と最後の頁 ベンガル研究 45-63 曷載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無 なし 無	なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1.著者名 丹羽京子	国際共著 - 4.巻 第一号
ベンガル研究 45-63 8 載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) 査読の有無 なし 無	なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 丹羽京子 2 . 論文標題	国際共著 - 4.巻 第一号 5.発行年
ベンガル研究 45-63 8 載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) 査読の有無 なし 無	なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1.著者名 丹羽京子 2.論文標題	国際共著 - 4.巻 第一号 5.発行年
ベンガル研究 45-63 8 載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) 査読の有無 なし 無	なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 丹羽京子 2 . 論文標題 1930年代のベンガル詩壇~時代からの展望	国際共著 - 4 . 巻 第一号 5 . 発行年 2023年
B載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無 なし 無	なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 丹羽京子 2 . 論文標題 1930年代のベンガル詩壇~時代からの展望	国際共著 - 4 . 巻 第一号 5 . 発行年 2023年
なし 無	なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 丹羽京子 2 . 論文標題 1930年代のベンガル詩壇~時代からの展望 3 . 雑誌名	国際共著 - 4 . 巻 第一号 5 . 発行年 2023年 6 . 最初と最後の頁
なし 無	なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 丹羽京子 2 . 論文標題 1930年代のベンガル詩壇~時代からの展望 3 . 雑誌名	国際共著 - 4 . 巻 第一号 5 . 発行年 2023年 6 . 最初と最後の頁
なし 無	なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 丹羽京子 2 . 論文標題 1930年代のベンガル詩壇~時代からの展望 3 . 雑誌名	国際共著 - 4 . 巻 第一号 5 . 発行年 2023年 6 . 最初と最後の頁
なし 無	なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 丹羽京子 2 . 論文標題 1930年代のベンガル詩壇~時代からの展望 3 . 雑誌名 ベンガル研究	国際共著 - 4 . 巻 第一号 5 . 発行年 2023年 6 . 最初と最後の頁 45-63
	なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 丹羽京子 2 . 論文標題 1930年代のベンガル詩壇~時代からの展望 3 . 雑誌名 ベンガル研究	国際共著 - 4 . 巻 第一号 5 . 発行年 2023年 6 . 最初と最後の頁 45-63
	なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 丹羽京子 2 . 論文標題 1930年代のベンガル詩壇~時代からの展望 3 . 雑誌名 ベンガル研究	国際共著 - 4 . 巻 第一号 5 . 発行年 2023年 6 . 最初と最後の頁 45-63
	なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 丹羽京子 2 . 論文標題 1930年代のベンガル詩壇~時代からの展望 3 . 雑誌名 ベンガル研究	国際共著 - 4 . 巻 第一号 5 . 発行年 2023年 6 . 最初と最後の頁 45-63
「「・」フンアクセス 国際共著	なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 丹羽京子 2 . 論文標題 1930年代のベンガル詩壇~時代からの展望 3 . 雑誌名 ベンガル研究	国際共著 - 4 . 巻 第一号 5 . 発行年 2023年 6 . 最初と最後の頁 45-63
	なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 丹羽京子 2 . 論文標題 1930年代のベンガル詩壇~時代からの展望 3 . 雑誌名 ベンガル研究 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	国際共著 - 4 . 巻 第一号 5 . 発行年 2023年 6 . 最初と最後の頁 45-63
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 丹羽京子 2 . 論文標題 1930年代のベンガル詩壇~時代からの展望 3 . 雑誌名 ベンガル研究 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス	国際共著 - 4 . 巻 第一号 5 . 発行年 2023年 6 . 最初と最後の頁 45-63
	なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 丹羽京子 2 . 論文標題 1930年代のベンガル詩壇~時代からの展望 3 . 雑誌名	国際共著 - 4 . 巻 第一号 5 . 発行年 2023年 6 . 最初と最後の頁
	なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 丹羽京子 2 . 論文標題 1930年代のベンガル詩壇~時代からの展望 3 . 雑誌名 ベンガル研究 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス	国際共著 - 4 . 巻 第一号 5 . 発行年 2023年 6 . 最初と最後の頁 45-63

〔学会発表〕 計6件(うち招待講演 2件/うち国際学会 2件)
1. 発表者名 丹羽京子、Sajjad Sharif, Srijato
2 . 発表標題 How Emotions Turn into Poetry
3.学会等名 南アジア国際ワークショップ(東京外国語大学南アジア研究センター)(国際学会)
4 . 発表年 2022年
1.発表者名 丹羽京子
2.発表標題 押韻の喚起するもの
3.学会等名 FINDAS(東京外国語大学南アジア研究センター)研究会
4 . 発表年 2021年
1.発表者名 丹羽京子
2.発表標題 「十二か月の家と世界」を訳す
3.学会等名 科研およびFINDAS共催研究会
4 . 発表年 2021年
1.発表者名 丹羽京子
2.発表標題 Tagore and Japan
3.学会等名 160th Birth Anniversary of Rabindranath Tagore, Japan-India-Bangladesh Exchange Event (招待講演)
4 . 発表年 2021年

1.発表者名	
Kyoko NIWA	
2. 発表標題 Rabindranath's Desh	
Rabiliul alia til 5 Desil	
Rabindranath and His India (招待講演)	
4 7V = /T	
4 . 発表年 2018年	
1.発表者名	
Kyoko NIWA	
2.発表標題	
2. 完衣標題 Pedagogy of Teaching Bengali as a Second Language	
Todagogy of Todaming Bengari as a second Edngaago	
3.学会等名	
International Society of Bengal Studies(国際学会)	
4.発表年	
2018年	
〔図書〕 計3件 1.著者名	4 . 発行年
一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一	2019年
2.出版社	5.総ページ数
大同生命国際文化基金	260
3 . 書名	
地獄で温かい	
1 . 著者名	4.発行年
丹羽京子	2018年
2 . 出版社	5.総ページ数
	163
3 . 書名	
ニューエクスプレスプラス ベンガル語	

1.著者名 Kyoko Niwa	4 . 発行年 2022年
2.出版社	5.総ページ数
Hornbill Press (India)	178
3.書名	
Rabindranath Tagore and Japan: Collected Essays	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6.研究組織

 , , MID GWEING		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

(当陈州九朱云) 时2仟	
国際研究集会	開催年
How Emotions Turn into Poetry 南アジア国際ワークショップ	2022年~2023年
国際研究集会	開催年
文化の翻訳、文学の翻訳	2021年~2022年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------